



シニアのひろば



「地域包括ケア」

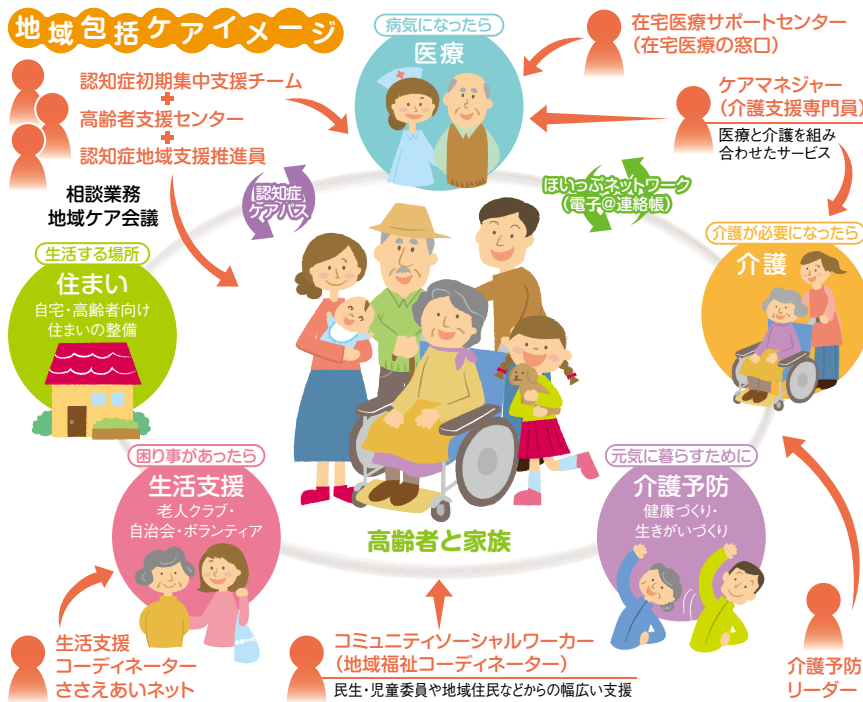
団塊の世代が75歳以上となる2025年（平成37年）に向けて、高齢者の人数が増加することに伴い、医療や介護の需要が高まることを見込まれます。

要介護状態になることを予防し、また慣れた地域で生活するために、市では、医療・介護・介護予防・生活支援・住まいを切れ目なく提供する「地域包括ケアシステム」の構築を図っています。
今回は、それぞれの役割や取り組みの一部をご紹介します。

【医療】
在宅医療が中心となり、治し支える医療が求められます。

【介護】
高齢者の相談窓口である高齢者支援センターが設置されています。

【介護予防】
要介護状態になることを予防するため、運動や手工芸、講話などをとり入れた教室やサロンを各市民館などで実施しています。



【生活支援】
高齢者世帯を対象に、見守りを兼ねて「配食サービス」や「生活ささえあいネットワーク」が開始された地域のボランティア活動を推進しています。
【住まい】
住み慣れた自宅で生活が続けられるように、住宅の改修費用の一部を補助しています。

さらに、それぞれが協力・理解することが必要で、田原市では今後も医療・介護・福祉関係者などが連携していけるよう本事業の推進を図ります。

▼高齢福祉課
☎ 23-4654 FAX 23-3545

医療と介護の連携による支援が有効な認知症については、今年度から**初期集中支援チーム**を設置し、早期発見、早期対応に努めています。支援チームは、専門の研修を受講された認知症サポート医と連携して相談支援にあたっています。専門医の先生方をご紹介します。



朽名誠先生



北山周先生